



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	北海道大学サステナビリティ・ウィーク 2015 : 年次記録 : 札幌サステナビリティ宣言2008を再確認する
Issue Date	2017-03
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/65301
Type	report
File Information	chapter-1.pdf,



1. サステナビリティ・ウィーク 2015 の概要

本年の特徴

- ・開催テーマ : 札幌サステナビリティ宣言 2008 を再確認する
- ・メイン期間 : 2015 年 10 月 24 日 (土) ～2015 年 11 月 8 日 (日)
- ・企画数 : 32 企画
- ・企画実施期間 : 2015 年 8 月 21 日 (金) ～2016 年 3 月 6 日 (日)
- ・参加者数 : 27,694 人
- ・特筆事項 :
 - 主要国首脳会議が 2016 年に 8 年ぶりに日本で開催されるのを前に、前回の G8 北海道洞爺湖サミットに合わせ、世界を牽引する大学が集まり採択した「札幌サステナビリティ宣言」に焦点を当てた。宣言の内容を再確認し、採択後の歩みを振り返る企画の開催を、サステナビリティ・ウィーク事務局は重点的に支援した。
 - 多数の学長が『北海道—フィンランド・ジョイントシンポジウム』、そして『日本—インドネシア学長会議』に集まった。前者は北極域、後者は日本とインドネシアにおける自然環境と社会環境の持続性に、大学は大きな責任を負っていること、そして、その責任を果たす上で大学間や産学間の連携が有益であることが確認された。
 - インターネット・フォーラム「GiFT」は 5 年目の開催にあたり、司会を北海道大学の学生グループに任せた。YouTube を通じた世界への 1 時間半の生配信には、世界各国から 267 人が参加した。
 - プレゼンテーションを通して価値あるアイデアを広める「TEDxHokkaidoU」や、社会起業アイデア国際コンペ「ハルト・プライズ」、「インドネシア留学生協会研究会」など、意欲的な学生による新たな企画が生まれた。
 - 附属図書館による展示企画や参加人数の多い学生の企画によって、参加者数が 2 万人を超えた。

❖ 総長あいさつ

今から7年前、G8サミット(主要国首脳会議)が北海道洞爺湖で開催されました。この時、各国を代表する27大学が札幌市に集まり、「大学は持続可能な社会実現のための原動力になる」という決意を「札幌サステナビリティ宣言」として採択しました。この宣言の採択に当たり主要な役割を果たした北海道大学は、宣言を実現すべく毎年サステナビリティ・ウィークを開催しています。ウィーク期間中は、地球温暖化や自然環境の劣化、少子高齢や経済格差などわたしたちの生存を脅かす課題について研究者や学生そして市民が、知識や知恵、技術や経験を持ち寄り、解決する方法をいっしょに考えてきました。来年8年ぶりに日本で主要国首脳会議が開催されるのを前に、今年のサステナビリティ・ウィークでは「札幌サステナビリティ宣言2008を再確認」します。それは、持続可能な社会の実現のために大学や研究者が果たしてきた役割について率直な意見交換をすることに他なりません。今回の再確認を期に、北海道大学はもちろんのこと、多くの参加者のみなさんの新たな歩みがここから始まることを願っています。



北海道大学 総長 山口佳三

北海道大学 総長 山口 佳三



北海道大学サステナビリティ・ウィーク 2015

札幌サステナビリティ宣言 2008 を再確認する



フェスタ
国立大学2015



北海道大学

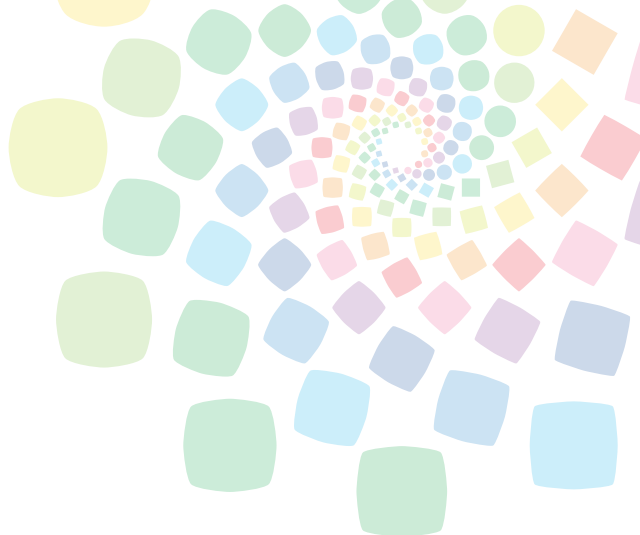


ごあいさつ



北海道大学 総長

山口 佳三



今から7年前、G8サミット(主要国首脳会議)が北海道洞爺湖で開催されました。この時、各国を代表する27大学が札幌市に集まり、「大学は持続可能な社会実現のための原動力になる」という決意を「札幌サステナビリティ宣言」として採択しました。この宣言の採択に当たり主要な役割を果たした北海道大学は、宣言を実現すべく毎年サステナビリティ・ウィークを開催しています。

ウィーク期間中は、地球温暖化や自然環境の劣化、少子高齢や経済格差などわたしたちの生存を脅かす課題について研究者や学生そして市民が、知識や知恵、技術や経験を持ち寄り、解決する方法をいっしょに考えてきました。

来年8年ぶりに日本で主要国首脳会議が開催されるのを前に、今年のサステナビリティ・ウィークでは「札幌サステナビリティ宣言2008を再確認」します。それは、持続可能な社会の実現のために大学や研究者が果たしてきた役割について率直な意見交換をすることに他なりません。今回の再確認を期に、北海道大学はもちろんのこと、多くの参加者のみなさんの新たな歩みがここから始まることを願っています。

1

札幌サステナビリティ宣言 Sapporo Sustainability Declaration (SSD)

持続可能な社会の実現に向けて大学は、国や社会と共に変革していく原動力としての役割を果たしていくとの決意を盛り込んでいます。アメリカのイエール大学、カナダのプリティッシュ・コロンビア大学、イギリスのケンブリッジ大学などの代表者が集まった世界初のG8大学サミットで採択されました。

2

サステナビリティ・ウィーク Sustainability Weeks

2007年の初開催以来、シンポジウム、展示、アイデア・コンテストなどの多彩な267件の行事が実施され、のべ15万人以上の来場者にご参加いただきました。議題はあらゆる学問分野に及び、持続可能な社会を議論するのに必要な課題をほぼ網羅しています。参加者の顔ぶれは年々多様化し、最新の研究成果や取り組み成果を携えた研究者や実践者が集う「世界に開かれた交流プラットフォーム」に成長しています。

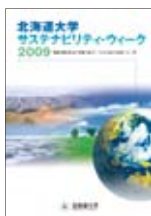
サステナビリティ・ウィークの歩み



2007年



2008年



2009年



2010年



2011年



2012年



2013年



2014年





北海道大学 サステナビリティ・ウィーク 2015

札幌サステナビリティ宣言 2008 を再確認する

〈凡例〉

行事番号は右記マップに対応しています。



それぞれのテーマを表すアイコンです。

特に記載のない限り、参加料等はすべて無料です。

申し込みサイトマーク

<https://huci.oia.hokudai.ac.jp/sw/list>

01

8月21日(金)・28日(金)、
9月4日(金)・11日(金)・18日(金)・25日(金) 18:15 ~ 19:45

公開講座 神秘的な物質 — その科学と応用 —

有料
事前振込要

- a 自然界物質は時に不思議な性質を持っています。魔法をかけると水をはじくガラス、電気を流す有機物など。ミリよりも小さいミクロ、さらに小さいメゾやナノの世界がその多様性を作ります。これらの性質を生活に利用する研究を最前線で行う工学部の研究者が、カラフルな動画・イラストでわかりやすく解説し、市民や学生と一緒に持続可能な社会構築を考えます。
- b 工学部B11講義室(B棟1階) c 日本語 d 必要(電話、メール、またはウェブサイトより申込書入手し送付。有料・事前振込要。詳細はウェブサイトにて)
- e 大学院工学研究院 f 道民カレッジ、いしかり市民カレッジ
- g 工学系事務部教務課 TEL:011-706-6707 E-mail:k-gakse@eng.hokudai.ac.jp
- h <http://www.eng.hokudai.ac.jp/graduate/top/news/?topic=15042201>

02

10月11日(日) 11:00開場、13:00開演

TEDxHokkaidoU Allure of Adventure ~冒険の誘惑~

有料
詳細はウェブサイト

- a 『Allure of Adventure~冒険の誘惑~』をテーマに、米国で人気のプレゼンテーション行事「TED(テッド)」をTEDxHokkaidoUとして開催します。北海道大学に眠る価値あるアイデアを発信し、地域・世界にアピールします。叡智の結集による持続可能な社会実現を目指し、北大生が企画・運営する行事です。
- b フード&メディアカリエーション推進本部 c 日本語・英語(逐次通訳あり)
- d 必要(9月中旬開設予定のTEDxHokkaidoUウェブサイトにて9/21まで受付)
- e TEDxHokkaidoU実行委員会
- g TEDxHokkaidoU E-mail: info@tedxhokkaidou.com
- h <http://www.tedxhokkaidou.com/>

03

10月13日(火)14:00~19:00・
14日(水)9:00~19:00・15日(木)9:00~17:00

触媒科学研究所 国際シンポジウム — サステナブル社会実現へ向けた触媒科学研究の世界的協力 —

- a 北海道大学「触媒科学研究所」は、他分野との国際的共同利用・研究を目指して10月に改組されます。10/13には改組記念講演会、式典、祝賀会を開催し、10/14、10/15には国内外から触媒分野で著名な研究者を招いて国際シンポジウムを開催します。サステナブル社会へ向けて国際共同研究の促進について意見交換を行います。
- b フロンティア応用科学研究棟 c 英語(通訳無し) d 必要(メールにて8/31まで受付。8/31以降は問合せ要) e 触媒科学研究所 f 日本化学会北海道支部、北海道大学フロンティア化学教育研究センター
- g 触媒化学研究センター 中山 哲 TEL:011-706-9145
- E-mail: nakayama@cat.hokudai.ac.jp
- h <http://sustain.oia.hokudai.ac.jp/sw/jp/2015/catalysis/>

04

10月15日(木) 14:00 ~ 18:00

北方圏のまちづくり・エネルギー・木造建築に関する 国際シンポジウム

Web

- a 北緯40度以北の北方圏には、美しい自然と天然資源があり、豊かなライフスタイルがあります。しかし、その厳しい自然環境ゆえに地域を維持するために多くのコストとエネルギーがかかりますが、その地域の自治体は人口減少に直面しています。本シンポジウムでは専門家が木造建築・エネルギー・まちづくりの視点から、北方圏の地域開発の現状を紹介し、市民や学生と未来のあり方を議論します。
- b 遠友学舎 c 日本語・英語(同時通訳あり) d 必要(申込みサイトにて10/10まで受付)
- e 大学院工学研究院 建築環境学研究室・建築史意匠学研究室 f アアルト大学(フィンランド)
- g 工学研究院 建築環境学研究室 森 太郎
- E-mail: mori.taro@eng.hokudai.ac.jp
- h <http://sustain.oia.hokudai.ac.jp/sw/jp/2015/arctic/>

05

10月19日(月)~11月2日(月) 平日9:00~22:00
土日9:00~19:00

展示 学術成果のオープンアクセスとHUSCAP

- a HUSCAP(ハスカップ=北海道大学学術成果コレクション)は、研究論文など北海道大学の様々な学術成果を恒久的に保存し、広く世界で共有するためウェブサイト上で無料公開しています。今回の展示では、誰もが学術成果を利用できるようにしようという『オープンアクセス運動』や、研究段階のデータも公開しようという『オープンサイエンス運動』について、世界の動向と研究者の声を紹介します。
- b 附属図書館本館 玄関ホール c 日本語 d 不要 e 附属図書館
- g 附属図書館学術システム課 E-mail: huscap@lib.hokudai.ac.jp
- h <http://eprints.lib.hokudai.ac.jp>

06

10月27日(火) 13:00 ~ 16:30

研究人材多様化と研究者支援のあり方 — 女性研究者の持続的な活躍を目指して —

- a 道内の大学や公的研究機関、民間研究機関の研究者が集まり、女性研究者の支援策について議論するシンポジウムです。お互いの共通認識や相違を再確認します。その有効で持続的な研究者支援の方策を議論します。
- b 学術交流会館(小講堂) c 日本語 d 不要 e 人材育成本部女性研究者支援室
- g 人材育成本部女性研究者支援室 TEL: 011-706-3625
- E-mail: freshu@synfoster.hokudai.ac.jp
- h <http://sustain.oia.hokudai.ac.jp/sw/jp/2015/human/>

07

10月29日(木)13:00~18:00・30日(金)9:00~13:00

第8回 セラミド研究会 学術集会

一部
有料

- a 機能性食品や化粧品素材などで近頃よく聞く「セラミド」。私達の体の健康維持には、セラミドが重要な働きをしていることがわかってきました。本研究会では、研究者の講演やポスター発表を中心に研究進展のため情報交換を図ります。同時に「食」を中心に健康・医療技術や知識を活かす取組み「さっぽろヘルスイノベーション(Smart-H)」事業展開の一助とします。
- b 学術交流会館(小講堂) c 日本語・英語(通訳無し)
- d 必要(セラミド研究会ホームページ内で詳細を案内。社会人は有料)
- e セラミド研究会 f さっぽろヘルスイノベーション "Smart-H"
- g セラミド研究会事務局 E-mail: info@ceramide.gr.jp
- h <http://www.ceramide.gr.jp/>

08

11月3日(祝・火) 13:00 ~ 16:00

市民セミナー 脆弱な巨大炭素貯蔵庫「熱帯泥炭林」を監視する — 温暖化緩和のために —

- a 東南アジアの熱帯泥炭林では、森林伐採や農地開発による泥炭の分解が火災に繋がり、膨大な二酸化炭素が排出される可能性が高くなっています。熱帯泥炭林の保全を目指し「監視」を行う研究者が、最新の研究成果から泥炭林の今と未来について市民や高校生向けに解説します。
- b 学術交流会館(第1会議室) c 日本語 d 不要 e 大学院農学研究院
- f 環境省環境研究総合推進費(2-1504)、Wetlandセミナー
- g 大学院農学研究院 平野 高司 E-mail: hirano@env.agr.hokudai.ac.jp
- h 沖元 洋介 E-mail: okimoto@env.agr.hokudai.ac.jp
- h <http://sustain.oia.hokudai.ac.jp/sw/jp/2015/carbon/>





今年のテーマ:「札幌サステナビリティ宣言2008を再確認する」
大学は持続可能な社会実現のための原動力になってきたでしょうか?
大学の責任について再確認します。



未来への学び

叡智(えいち)や課題を分かち合い共感することを通じて、
新たな未来を切り開く心、ちから、仲間を育みます。



調和を見いだす

自然の恩恵を意識しつつ、環境を損なわずに暮らす道を模索します。



すこやかに人間らしく生きる

ひとり一人が身体的、精神的、社会的に良好な状態(Well-being)で
質の高い生活(Quality of Life)を送ることのできるコミュニティをつくりまします。



09 公開講座 ようこそ!ヘルスサイエンスの世界へ

- 「ようこそ!ヘルスサイエンスの世界へ」という基本テーマのもと、3名の北海道大学講師が専門分野から、
①「最後まで住み慣れた家で過ごすために」②「原菌と戦う好中球の必殺技—好中球細胞外トラップ」③「超高齢化社会へ向けた車いすデザインの提案」について、市民を対象にお話します。
- ④ 大学院保健科学研究院 E棟 多目的室 ⑤ 日本語
⑥ 必要(電話またはメールにて10/16まで受付) ⑦ 大学院保健科学研究院
⑧ 保健科学研究院事務課 TEL: 011-706-3315
E-mail: shomu@hs.hokudai.ac.jp
⑨ <http://sustain.oia.hokudai.ac.jp/sw/jp/2015/health/>



10 地球研・北大合同地球環境セミナー 臭いものに蓋をしない?「フン」をめぐる文化論や技術論 —アフリカやアジアの事例から—

- ① 尿や廃棄物は身近にありながら、扱い次第で汚染原因にも暮らしに役立つ資源にもなります。とはいえ、日常の暮らしの中で私たちの意識の外に押し出されてきたように感じませんか?世界的に人口局在化やライフスタイルの変化が進む中、これまでの様に「臭いものに蓋」をすることに限界が来ています。アジアやアフリカの事例を参照し、向き合い方を市民と一緒に考えます。
- ④ 農学研究大学院大講堂 ⑤ 日本語 ⑥ 不要 ⑦ 大学院工学研究院 ⑧ 総合地球環境学研究所
⑨ 大学院工学研究院 環境創生工学部門 船水 尚行
E-mail: funamizu@eng.hokudai.ac.jp
⑩ <http://sustain.oia.hokudai.ac.jp/sw/jp/2015/lid/>



11 留学希望者向けセミナー SD on Campus

- ① 北海道大学の海外協定大学から来日している北海道大学短期留学プログラム(HUSTEP)の留学生が、海外協定校ではサステナブル・ディベロプメント(SD)についてどのような教育を行い、学生はSDにどのように関わっているかを紹介します。
- ④ 国際本部(詳細10月決定予定。ウェブサイトにてご確認ください) ⑤ 英語(通訳無し)
⑥ 必要(申込サイトにて11/6当日まで受付) ⑦ 国際本部国際教務課
⑧ 国際本部国際教務課 河野 公美
TEL: 011-706-8053 E-mail: jryugaku@oia.hokudai.ac.jp
⑨ <http://sustain.oia.hokudai.ac.jp/sw/jp/2015/sd/>



12 お口の健康と歯科医療 その1 —患者サイドに立った知識の浸透—

- ① 生活の質を左右する要素の一つに食事があります。今回の講演会では、この「食事」を楽しむために必要なお口の健康と、問題が発生した場合の対処法・治療法について、お話し上手な講師が、市民や高校生にわかりやすく紹介します。
- ④ 歯学部講堂 ⑤ 日本語 ⑥ 必要(申込サイトにて11/4まで受付) ⑦ 歯学研究科
⑧ 大学院歯学研究科 有馬 太郎
Tel: 011-706-4275 E-mail: tar@den.hokudai.ac.jp
⑨ <http://sustain.oia.hokudai.ac.jp/sw/jp/2015/dent/>



13 研究倫理国際ワークショップ —教育方法とその有効性の検証—

- ① 北海道大学とロシアならびにルーマニアの海外協定校にて行われた、研究倫理に関する教育実践の報告を通して、研究倫理教育教材の有効性を検証します。既存教材の改善を狙いつつ、新しい教材の研究開発に向けた議論を行う、大学生、院生、専門家向けの国際ワークショップです。研究に携わる専門職業人としての研究者の徳目という視座より、サステナブルな社会の実現を考えます。
- ② 人文・社会科学 総合教育研究棟 W409室 ③ 英語(通訳無し) ④ 不要 ⑤ 大学院文学研究科、応用倫理研究教育センター ⑥ サンクトペテルブルグ国立大学(ロシア)、フカレスト大学(ルーマニア)
⑦ 大学院文学研究科 応用倫理研究教育センター
TEL: 011-706-4088 E-mail: erikashibata@let.hokudai.ac.jp
⑧ <http://sustain.oia.hokudai.ac.jp/sw/jp/2015/ethics>



14 国際シンポジウム 地域社会へ与える考古学の影響 —ポストコロナル時代の考古学と先住民コミュニティ—

- ① アイヌ民族の大地である北海道で、先住民と考古学の関わりについて広い視野で専門家が議論するシンポジウムです。先住民の権利回復とその歴史について深く理解する為、世界各地の課題を検証します。そして、市民や高校生と一緒に先住民の課題解決における新たな視座を得ます。また、来年アジア初開催となる世界考古学会議(開催地:京都)の連携企画です。
- ② 学術交流会館(講堂) ③ 日本語・英語(逐次通訳あり) ④ 不要
⑤ アイヌ・先住民研究センター ⑥ 観光学高等研究センター
⑦ アイヌ・先住民研究センター 加藤 博文 TEL: 011-706-2859
E-mail: ainu@let.hokudai.ac.jp
⑧ <http://www.cais.hokudai.ac.jp>



15 GiFT — Global issues Forum for Tomorrow —

- ① 世界の大学生や高校生とインターネット上で意見を共有するフォーラム
- 北海道大学から世界へ未来へ
- GiFT**
Global Issues Forum for Tomorrow
<http://y2u.be/Txd9MhvWBIA>

【今年の課題】 北極圏の気候変動が引き起こす全地球規模の変化に、わたしたちはどのように対応したらよいか

世界の視聴者と一緒に、最新の研究成果を紹介するビデオを観て、あなたの感想や意見を英語や日本語でシェアしよう!

北海道大学体験ツアー2016が当たる!

積極的にコメントを寄せてくれた視聴者の中から3名を、北海道大学の授業や研究を体験できるツアーにご招待します。詳しくは、GiFTウェブサイトでも10月中旬に公表します。<http://sustain.oia.hokudai.ac.jp/gift/>



北海道大学体験ツアー2015

- 過去のツアーの様子は Facebook で公開中 <https://www.facebook.com/SW.Hokkaido.u>
- ④ 英語(通訳無し) ⑤ 不要 ⑥ 北海道大学
⑦ サステナビリティ・ウィーク事務局
TEL: 011-706-8031 E-mail: sw1@oia.hokudai.ac.jp
⑧ <http://sustain.oia.hokudai.ac.jp/gift/index.html>

16 11月10日(火)~11月12日(木)

北海道大学 —フィンランド ジョイントシンポジウム —北極域の持続可能性に貢献する大学の役割—

11月10日(火) 14:00~17:45

オープニングセッション

- ① 今、北極域の研究に世界中の関心が集まっています。北極をめぐるような課題が生じているのか。その課題に、北海道大学やフィンランドの大学はどのように取り組んでいるのか。今年4月に開設した「北海道大学北極域研究センター(ARC-HU)」を始め、多彩な背景を持つ専門家による複数の報告により最新情報を共有し、今後の教育研究の在り方について議論します。

② 百年記念会館 大講堂 ③ 英語(同時通訳あり)

11月11日(水) 9:00~19:00 (予定)

研究者間の討論を中心とした専門分科会

- ① 分科会キーワード
■ 北極の海洋環境と海事
■ 北極の人口
■ 北極の持続可能な開発のためのイノベーション

分科会共通 ② 創成研究セミナー室 ③ 英語(通訳なし)

11月12日(木) 午後(時間未確定)

クロージングセッション

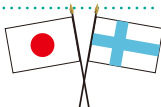
- ① 各分科会の議論内容を共有し、今後の協働の在り方について議論します。
② 百年記念会館 大講堂 ③ 英語(通訳なし)

全行事共通 ④ 不要 ⑤ 北海道大学 ⑥ ラップランド大学、オウル大学

⑦ 国際本部 国際交流課 TEL: 011-706-8029

E-mail: gi-core@oia.hokudai.ac.jp

⑧ http://sustain.oia.hokudai.ac.jp/sw/jp/2015/finland/



20

11月21日(土)~11月23日(祝・月) 時刻詳細はウェブサイトを確認ください。

CLARK THEATER 2015 — Lead —

一部
有料

- ① 今年で10年目を迎えるクラークシアターは、先導を意味する「Lead(リード)」をテーマに後世に影響を与える優れた映画を上映します。映画鑑賞を介して学生と市民が学び、巡り合う場を設けることが持続可能な社会に繋がると信じ、期間限定の映画館を開設します。

② クラーク会館 大講堂 ③ 日本語 ④ 不要

⑤ 北大映画館プロジェクト

⑥ 北大映画館プロジェクト E-mail: info@clarktheater.jp

⑦ http://www.clarktheater.jp/



学生
企画

クラーク博士

©Snowbugs.ltd

21

11月22日(日) 13:30~16:30

一般公開フォーラム 同性パートナーシップ制度導入を考える

- ① 「同性パートナーシップ制度」を地方自治体に導入する意義と課題を、人権・経済・政治などの観点から、専門家や弁護士を招いて市民や高校生と一緒に考えるフォーラムです。ジェンダー・セクシュアリティに囚われない持続可能な社会作りを考える機会であると同時に、国際的視野で地域協働の未来づくりを考えます。

② 学術交流会館(講堂) ③ 日本語 ④ 不要 ⑤ 大学院文学研究科 応用倫理研究教育センター

⑥ 法学研究科附属高等法政教育研究センター、公共政策大学院

⑦ 大学院文学研究科 応用倫理研究教育センター TEL:011-706-4088

E-mail: caep@let.hokudai.ac.jp

⑧ http://ethics.let.hokudai.ac.jp

17

11月10日(火) 13:00~16:00

次世代コジェネレーションシステム公開シンポジウム ~コジェネレーションネットワークの普及に向けて~

- ① 電力と廃熱の両方を有効利用できる「コジェネレーション」は、国内ではまだまだ普及していないのが現状です。エネルギー関連の企業だけではなく、地域に暮らす人びとが便利で利益を得られる「協調型コジェネレーションシステム」を、最新のエネルギー変換について研究している北海道大学の研究者が市民や高校生に向けて提案します。

② フロンティア応用科学研究棟 鈴木章ホール ③ 日本語 ④ 不要

⑤ 工学研究院 エネルギー変換システム研究室

⑥ 工学研究院 穂田 寿子 TEL: 011-706-6785

E-mail: hieda@eng.hokudai.ac.jp

⑦ http://sustain.oia.hokudai.ac.jp/sw/jp/2015/co-gene/

18

11月16日(月) 14:00~16:30

WHO研究協力センター指定記念講演会 化学物質による健康障害の予防(仮)



- ① 化学物質に汚染された環境は、健康にどんな影響を与えるのでしょうか。国外ではどのような問題があり、どのような支援が必要とされているのでしょうか。化学物質による健康障害の予防に取組む北海道大学の環境健康科学研究教育センターは、今年「WHO(世界保健機関)研究協力センター」に指定されたことを機に、安全で持続可能な社会実現に向け、今後の課題と責任を市民と一緒に考えます。

② 百年記念会館 ③ 日本語・英語(同時通訳あり) ④ 必要(申込サイトにて11/16当日まで受付)

⑤ 環境健康科学研究教育センター ⑥ 保健科学研究院、医学研究科

⑦ 環境健康科学研究教育センター 荒木 敦子

TEL:011-706-4748 E-mail: AAraki@cehs.hokudai.ac.jp

⑧ http://sustain.oia.hokudai.ac.jp/sw/jp/2015/who-sympo/

19

11月21日(土) 13:00~16:00

経済学研究科 地域経済経営ネットワーク研究センターシンポジウム —北海道の観光と地域振興 インバウンド観光の先に見えるもの—

- ① 近年、北海道の観光業界は急増する外国人旅行者の対応に追われています。長期的な課題は、豊かな資源を活かしながら、いかに付加価値を高め多様化を進めるかがあります。長年この課題に取り組む2名の講師を招き、スイスで観光政策に携わった経験や、外国人起業家として北海道観光に貢献してきた経験を元に、各地域の魅力と発展に繋げるにはどうすべきかを市民と一緒に議論します。

② 人文・社会科学 総合教育研究棟 W103教室 ③ 日本語 ④ 不要

⑤ 経済学研究科 地域経済経営ネットワーク研究センター(REBN) ⑥ 観光学高等研究センター

⑦ REBN 事務局 塚田 久美子 TEL: 011-706-4066

E-mail: sacade@econ.hokudai.ac.jp

⑧ http://rebn.econ.hokudai.ac.jp/

22

11月30日(月)13:00~18:00
12月1日(火)9:00~18:00・2日(水)9:00~12:00

低温科学国際シンポジウム

- ① 低温科学研究所による、寒冷圏および低温環境下における諸現象に関する基礎的・応用的研究について、最新の研究成果と将来的展望について、研究者と大学生・院生が議論します。
研究テーマ:(1)水および物質の循環 (2)雪氷の新領域科学 (3)環境生物学 (4)環オホーツク領域の自然科学

② 低温科学研究所(新棟3階 講堂) ③ 英語(通訳無し)

④ 必要(HPから登録用紙を入手しメールにて9/18までに送付) ⑤ 低温科学研究所

⑥ 低温科学研究所 佐崎 元 TEL: 011-706-6880

E-mail: sazaki@lowtem.hokudai.ac.jp

⑦ http://www.lowtem.hokudai.ac.jp/symposium.html

23

12月3日(木) 13:30~18:05

サステナブルキャンパス国際シンポジウム2015 持続可能な社会実現のためのチーム・ビルディング



- ① 大学キャンパスの役割は、「社会的学習の場」へと変わり始めています。北海道大学をはじめ、実社会の課題解決のためサステナビリティ学教育に取り組む大学は、多様な専門分野の知識、学生のアイデア、社会のニーズを統合させ、大学を社会に開かれた場へ進化させています。この進化を起こす鍵は何かでしょうか?大きな組織を動かす秘訣はあるのでしょうか?

マサチューセッツ工科大学(アメリカ)、ブリティッシュコロンビア大学(カナダ)、名古屋大学から講演者を招き、

②「チーム・ビルディング」の方法

③サステナビリティ・オフィスの役割

④トップコミットメントとボトムアップの双方向戦略

について講演します。

また、札幌サステナビリティ宣言以降の北海道大学

の取組を振り返り、市民と一緒に考えます。



② 学術交流会館(講堂) ③ 日本語・英語(同時通訳あり) ④ 必要(申込サイトにて受付)

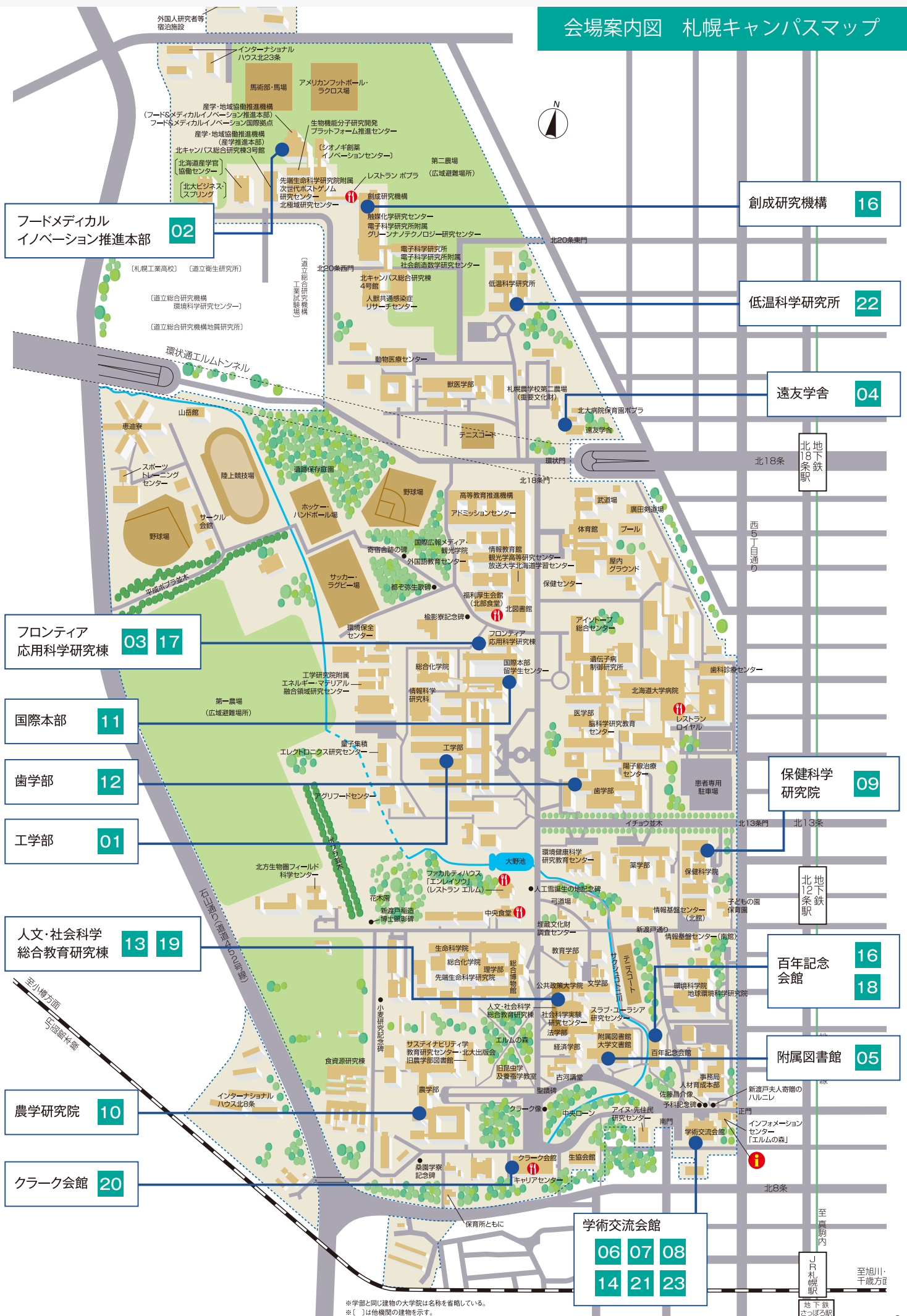
⑤ サステナブルキャンパス推進本部・施設部

⑥ サステナブルキャンパス推進本部 TEL: 011-706-3660

E-mail: osc@osc.hokudai.ac.jp

⑦ http://sustain.oia.hokudai.ac.jp/sw/jp/2015/sc-sympo/

会場案内図 札幌キャンパスマップ



イベントスケジュール

● 主な対象

日 程		行 事 名		共催・後援	連日開催	専門家	市民	大学生 院生	高校生
1	8月21日(金)・28日(金)、 9月4日(金)・11日(金)・ 18日(金)・25日(金)	 公開講座 神秘的な物質 ― その科学と応用 ― 主催：大学院工学研究院		道民カレッジ、 いしかり市民カレッジ		●	●	●	●
2	10月11日(日)	 TEDxHokkaidoU Allure of Adventure ～冒険の誘惑～ 主催：TEDxHokkaidoU実行委員会	学生企画				●	●	●
3	10月13日(火)	 触媒科学研究所 国際シンポジウム ― サステナブル社会実現に向けた触媒科学研究の世界的協力 ― 主催：触媒科学研究所		日本化学会北海道支部、 北海道大学フロンティア化学 教育研究センター		●		●	
4	10月15日(木)	 北方圏のまちづくり・エネルギー・木造建築に関する国際シンポジウム 主催：大学院工学研究院 建築環境学研究室・建築史意匠学研究室		アアルト大学、 日本建築学会北海道支部(後援)、 空気調和衛生工学会北海道支部(後援)、 北海道フィンランド協会(後援)		●	●	●	●
5	10月19日(月)～11月2日(月)	 学術成果のオープンアクセスとHUSCAP 主催：附属図書館			5 10/19		●	●	●
6	10月27日(火)	 研究人材多様化と研究者支援のあり方 ― 女性研究者の持続的な活躍を目指して ― 主催：人材育成本部女性研究者支援室				●	●	●	
7	10月29日(木)・30日(金)	 第8回セラミド研究会 学術集会 主催：セラミド研究会		ざっぼろヘルスイノベーション "Smart-H"		●	●	●	
8	11月3日(祝・火)	 市民セミナー 脆弱な巨大炭素貯蔵庫「熱帯泥炭林」を監視する ― 温暖化緩和のために ― 主催：大学院農学研究院		環境省環境研究総合推進費(2-1504)、 Wetlandセミナー、 JapanFlux(後援)、 日本泥炭地学会(後援)	11/2		●	●	●
9	11月3日(祝・火)	 公開講座 ようこそヘルスサイエンスの世界へ 主催：大学院保健科学研究院					●	●	●
10	11月6日(金)	 地球研・北大合同地球環境セミナー 臭いものに蓋をしない? 「フン」をめぐる文化論や技術論 ― アフリカやアジアの事例から ― 主催：大学院工学研究院		総合地球環境学研究所		●	●	●	
11	11月6日(金)	 留学希望者向けセミナー SD on Campus 主催：国際本部国際教務課							●
12	11月7日(土)	 お口の健康と歯科医療 その1 ― 患者サイドに立った知識の浸透 ― 主催：歯学研究科				●	●	●	●
13	11月7日(土)	 研究倫理国際ワークショップ ― 教育方法とその有効性の検証 ― 主催：大学院文学研究科 応用倫理研究教育センター		サンクトペテルブルク国立大学、 フカレスト大学		●		●	
14	11月7日(土)・8日(日)	 国際シンポジウム 地域社会へ与える考古学の影響 ― ポストコロナリアル時代の考古学と先住民コミュニティ ― 主催：アイヌ・先住民研究センター		観光学高等研究センター、 世界考古学会議、WAC-8 京都実行委員会(後援)		●	●	●	●
15	11月8日(日)	 GiFT ― Global issues Forum for Tomorrow ― 主催：北海道大学						●	●
16	11月10日(火)～11月12日(木)	 北海道大学 ― フィンランド ジョイントシンポジウム 主催：国際本部		ラップランド大学、オウル大学	16 11/10	●	●	●	
17	11月10日(火)	 次世代コジェネレーションシステム公開シンポジウム ～コジェネレーションネットワークの普及に向けて～ 主催：工学研究院 エネルギー変換システム研究室				●	●	●	●
18	11月16日(月)	 WHO研究協力センター指定記念講演会 化学物質による健康障害の予防(仮) 主催：環境健康科学研究教育センター		保健科学研究院、医学研究科、 札幌市(後援)、札幌市教育委員会(後援)、 札幌市保健所(後援)	11/12	●	●	●	
19	11月21日(土)	 経済学研究科 地域経済経営ネットワーク研究センター シンポジウム ― 北海道の観光と地域振興 インバウンド観光の先に見えるもの ― 主催：経済学研究科 地域経済経営ネットワーク研究センター(REBN)		観光学高等研究センター		●	●	●	
20	11月21日(土)～11月23日(祝・月)	 CLARK THEATER 2015 ― Lead ― 主催：北大映画館プロジェクト	学生企画		20 11/21	●	●	●	●
21	11月22日(日)	 一般公開フォーラム 同性パートナーシップ制度導入を考える 主催：大学院文学研究科 応用倫理研究教育センター		法学研究科附属 高等法政教育研究センター 公共政策大学院	11/23	●	●	●	●
22	11月30日(月)～12月2日(水)	 低温科学国際シンポジウム 主催：低温科学研究所			22 11/30	●		●	
23	12月3日(木)	 サステイナブルキャンパス国際シンポジウム2015 持続可能な社会実現のためのチーム・ビルディング 主催：サステイナブルキャンパス推進本部・施設部			12/2	●	●	●	

特別企画
Japan x Indonesia



持続可能な社会の実現に向けた
日本ーインドネシア学長会議

インドネシアと日本の発展を牽引する研究型大学の代表者が、
札幌サステイナビリティ宣言が採択された地に集まり、
持続可能な社会の実現に向けた協働の在り方について議論します。

11月5日(木)・6日(金) 北海道大学主催

既に本学は、インドネシアの3大学と協働で大学院生向けの「PARE(ペアー)教育プログラム」を実施し、アジアの人口増加と環境劣化が絡み合う複合的な課題を解決する人材を、毎年30人ほど輩出しています。インドネシアの17大学、日本の26大学の代表者は、このような大学間の協働はもちろんのこと、産業界や地域自治体と大学とが連携する優良事例を学ぶとともに議論を通じて新たな可能性を探ります。

本行事は、招待者のみが参加できるクローズ会議です。議論の内容は後日、ウェブサイトで公開します。
<http://sustain.oia.hokudai.ac.jp/sw/jp/2015/ji>

News!

Hokkaido University

世界と日本の大学生・大学院生へ
集まれ熱意。集まれ世界一流。

Hokkaido Summer Institute 2016

次の夏は、北海道で学ぼう！ Hokkaidoサマー・インスティテュート開始



世界第一線の研究者や実務者から最先端の「知」を受け、
持続可能な社会の実現に向け自分をレベルアップしよう。

爽やかな夏の北海道で、新しい友人、楽しい思い出、必要な単位を集めよう。

科目例

- 農学校に起源を持つ北海道大学ゆえに → 「持続可能な発展における農業と教育と健康」
- ノーベル化学賞の実績を基盤に → 「世界を先導する分子化学」
- 世界の水問題に取り組む → 「資源回収型サニテーション」
- 地球温暖化で激変する北極に注目 → 「衛星から見る極寒の地《北極》」
- 日本で最も人気の獣医学研究科が提供 → 「野生動物／保全医学」
- 日本に興味がある人はぜひ！ → 「日本法入門」

など、60以上の科目が英語で開講されます。

ウェブサイト
オープン

2015年11月中旬

受講申込み

2016年1月開始

■詳しい情報はウェブサイトで公開しています。

<http://sustain.oia.hokudai.ac.jp/sw/jp/>
<https://www.facebook.com/SW.Hokkaido.u>

参加申し込みはこちら →



サステナビリティ・ウィーク2015 事務局
北海道大学国際本部内

〒060-0815 北海道札幌市北区北15条西8丁目
電話：011-706-8031 FAX：011-706-8036 E-mail: sw1@oia.hokudai.ac.jp

R100

古紙配合率100%再生紙を使用しています。



2015年9月発行

サステナビリティ・ウィーク2015を振り返って



サステナビリティ・ウィーク2015実行委員長
国際担当理事・副学長 上田 一郎

持続可能な社会の実現に向けた教育研究の推進週間として、2007年に開始した北海道大学サステナビリティ・ウィーク事業は、今年で第9回を迎えました。中核期間である10月24日(土)から11月8日(日)の16日間に12企画が、その前後数週間に20企画が開催されました。国際シンポジウム、市民講座、ワークショップ、展示、企画コンペ、映画上映など、32の多様な企画を通じて持続可能な社会の実現を目指した情報発信、議論、学び、人的ネットワークづくりが行われました。

2014年も、開催期間は4ヶ月間におよび、サステナビリティ・マンズ(Sustainability Months: サステナビリティ月間)と化していましたが、2015年は新たな企画が加わり、開催が8～12月と5ヶ月の長期にわたりました。もはや、サステナビリティ・シーズン(Sustainability Season: サステナビリティ季)と呼ぶ方がふさわしいほど、1年の半分は人類の重要な課題について何かしらの企画を行っている状況となりました。

国連：新たな持続可能な開発のための 2030アジェンダの採択

2015年9月25～27日に国際連合では持続可能な開発サミットが開催され、「私たちの世界を転換する：持続可能な開発のための2030年アジェンダ」が193の国連加盟国全会一致で採択されました。この新たなアジェンダは各国に対し、2016年から15年間で17個の持続可能な開発目標(SDGs)の達成に取り組むよう呼びかけると同時に、「あらゆる人の貢献が必要となる」と訴えています。大学そして教職員や学生も例外ではありません。こういった国際社会の要請に応え得る時宜に合ったテーマを今年のサステナビリティ・ウィークは掲げて実施しました。

開催テーマ「札幌サステイナビリティ宣言2008を再確認する」

「大学が持続可能な社会実現のための原動力になる」という決意を盛り込んだ札幌サステイナビリティ宣言を改めて認識し直すというのが、今年のテーマでした。本宣言は、北海道大学が重要な役割を果たして2008年に札幌で開催したG8大学サミットで、世界の主要な27大学が採択したものです。以来、7年ぶりに日本開催となる2016年5月のG7サミット開催を目前に、持続可能な社会実現のための大学の役割を複数の企画においてあらためて議論しました。

社会と共に教育し、社会と共に研究する大学へ

多数の学長が集まった『北海道—フィンランド・ジョイントシンポジウム』、そして『日本—インドネシア学長会議』では、前者は北極域、後者は当該国における自然環境と社会環境の持続性に、大学は大きな責任を負っていること、そして、その責任を果たす上で大学間や産学間の連携が有益であることが確認されました。

大学が位置する地域社会に焦点を当てた『サステイナブルキャンパス国際シンポジウム2015』では、大学のキャンパスというハードとそこで展開される教育研究というソフトを活かすことによって、地域社会の環境負荷低減や新しい社会サービスの開発に貢献し得ること、そのためには自治体、産業界、アカデミアの関係者によるチームが不可欠であるとの認識が共有されました。

『WHO研究協力センター指定記念講演会』や『ようこそ！ヘルスサイエンスの世界へ』、『同性パートナーシップ制度導入を考える』などの複数の企画では、ひとり一人が健やかに人間らしく生きられる社会を目指して取り組んでいる研究の成果を、市民に向けて発信しました。

これらから分かることは、山口総長のモットーである「社会と共に教育し、社会と共に研究する大学」の姿を追求することこそ、持続可能な社会へと変革を促す原動力となろうとする大学の姿だということです。

学生によるイニシアチブ

今年の特徴のひとつに、意欲的な学生による新企画が挙げられます。価値あるアイデアを広げる『TEDxHokkaidoU』、社会起業アイデアの国際コンペ『ハルト・プライズ 北海道大学予選』など、学生がイニシアチブを発揮して持続可能な社会のあり方を議論する場を形成しました。

他にも、留学生と日本人学生が司会を務めたインターネット・フォーラム『GiFT - Global Issues for Tomorrow-(世界課題解決に向けたフォーラム)』では、YouTube上で世界から267人の大学生や高校生などが参加しました。彼らは、本学の総長や研究者からのビデオメッセージに触発され、世界の課題解決に向けた意欲やアイデアをチャットで交換しました。

2016年に向けて

サステナビリティ・ウィークは、来年10年目という節目を迎えます。これまで、サステナビリティ・ウィーク実行委員会では、Sustainability(持続可能性)という概念を、自然環境、社会環境、経済発展の枠組みにとどまらず、安寧(Well-being)や社会的包摂(social inclusion)を含む広い視野で捉えてきました。国連のSDGsの目標群を眺めれば、我々の視界が世界を先取りしていたことは一目瞭然です。

「近未来戦略150」で「世界の課題解決への貢献」を掲げる北海道大学は、この歩みを止めることなく変革の原動力であり続けます。

次回は2016年10月22日(土)から11月6日(日)を中心に開催する予定です。2016年5月に開催される伊勢志摩サミットなど国際社会の動きとともに地域のニーズも捉え、社会と共に教育、研究していきますので、皆様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。